

## JEITAナノエレクトロニクス技術フォーラム —未来を刷新するプリントドエレクトロニクスへの期待—

■主催：ナノエレクトロニクス標準化専門委員会

■担当部署：知的基盤部

■参加者数：約130名

### 概要

ナノエレクトロニクスは、従来のエレクトロニクスの機能を格段に向上させ、かつ大幅な省エネルギーを実現できるキーテクノロジーと期待されています。

JEITAではこれまで、当該分野の標準化活動及び開発動向調査を実施すると同時に、ナノエレクトロニクスの研究開発の重要性を提言し続けており、当フォーラムは2011年から数え、4回目の開催となりました。

今回は、ナノ材料を用いた印刷技術により、更なる技術革新が期待されているプリントドエレクトロニクスにフォーカスしました。

冒頭、当フォーラムを主催したJEITAナノエレクトロニクス標準化専門委員会委員長（日本電気株）より、ナノエレの標準化動向とプリントドエレクトロニクスに対する期待が述べられました。

講演では、まず（独）産業総合研究所 鎌田俊英様より、「プリントドエレクトロニクスの技術開発動向と未来像」として、現在研究が進められているプロセス技術や将来の活用に向けた展望をお話いただきました。

次に、東京大学 関谷 毅様より、次世代の医療・福祉・ヘルスケアの分野での活用が期待されている「装着感がない有機フレキシブルセンサ」の研究開発動向と将来の展望をお話いただきました。

コニカミノルタ株 森川雅弘様からは、「有機EL照明の技術動向と将来展望」と題し、LEDに続く次世代省エネ光源として期待されている有機EL照明について、高効率化、製造コスト低減技術等の動向と将来展望をご講演いただきました。

最後に、大日本印刷株 高橋達見様からは、「プリントドエレクトロニクスの国際標準化活動」について、IEC TC119の動向と国内の対応状況等について報告されました。

IEC TC119国内審議団体はJEITAが受託しており、今後も積極的な活動を推進してまいります。

近年特に注目を浴びるプリントドエレクトロニクスに関するフォーラムを開催し、非常に多くの聴講者にご参加いただけましたことはこの領域に対し、多くの方が今後の可能性を感じている証拠であったかと存じます。

JEITAでは、今後も電気・電子業界の発展に繋がる有益な情報発信を継続してまいりますので、今後とも皆様の積極的なご提案・ご要望を賜りましたら幸いです。



## プログラム

### 【司会】

ナノエレクトロニクス標準化戦略G 主査 大谷 成元 氏 (㈱富士通研究所)

### ○開催挨拶

ナノエレクトロニクス標準化専門委員会 委員長 萬 伸一 氏 (日本電気㈱)

### ○「プリントドエレクトロニクスの技術開発動向と未来像」

鎌田 俊英 氏 ((独)産業技術総合研究所 フレキシブルエレクトロニクス研究センター長)

### ○「次世代医療・福祉・ヘルスケアに期待されるウェアラブルエレクトロニクス」

東京大学大学院 工学系研究科 准教授 関谷 毅 氏

### ○「有機EL照明の技術動向と将来展望」

森川 雅弘 氏

(コニカミノルタ㈱) アドバンストレイヤーカンパニー OLED事業部 技術開発部 共通技術開発グループリーダー)

### ○「プリントドエレクトロニクスの国際標準化活動」

JEITAプリントドエレクトロニクス標準化専門委員会 幹事 高橋 達見 氏

(大日本印刷㈱) 研究開発・事業化推進本部 Senior Officer)



鎌田 俊英 氏



関谷 毅 氏